

第一章

第二章

| | | |
|----|----------------------------------|---------------|
| 10 | 漢字の知識 (漢字の画数・筆順)..... | 40 〜 43 |
| 9 | ことばの知識 (カタカナで書くことば)..... | 36 〜 39 |
| 8 | ことばのきまり (文を組み立てることば)..... | 32 〜 35 |
| 7 | 詩 (気持ちの読み取り)..... | 28 〜 31 |
| 6 | 説明文 (中心になる文)..... | 24 〜 27 |
| 5 | 説明文 (つなぐことば)..... | 20 〜 23 |
| 4 | 説明文 (指ししめすことば)..... | 16 〜 19 |
| 3 | 物語 (細部の読み取り)..... | 12 〜 15 |
| 2 | 物語 (気持ちの読み取り)..... | 8 〜 11 |
| 1 | 物語 (場面の読み取り)..... | 4 〜 7 |
| 20 | 漢字の知識 (漢字の部首)..... | 80 〜 83 |
| 19 | ことばの知識 (反対の意味のことば・にた意味のことば)..... | 76 〜 79 |
| 18 | ことばのきまり (主語・述語・しゅうしよく語)..... | 72 〜 75 |
| 17 | 詩 (主題の読み取り)..... | 68 〜 71 |
| 16 | 説明文 (文章の要点)..... | 64 〜 67 |
| 15 | 説明文 (段落のつながり)..... | 60 〜 63 |
| 14 | 説明文 (段落の要点)..... | 56 〜 59 |
| 13 | 物語 (主題の読み取り)..... | 52 〜 55 |
| 12 | 物語 (表現の特色)..... | 48 〜 51 |
| 11 | 物語 (せいかくの読み取り)..... | 44 〜 47 |

第三章

| | | | |
|----|------------------------------|-----|-----|
| 21 | 物語（練成問題）…………… | 84 | 87 |
| 22 | 物語（練成問題）…………… | 88 | 91 |
| 23 | 物語（練成問題）…………… | 92 | 95 |
| 24 | 説明文（練成問題）…………… | 96 | 99 |
| 25 | 説明文（練成問題）…………… | 100 | 103 |
| 26 | 説明文（練成問題）…………… | 104 | 107 |
| 27 | 詩（練成問題）…………… | 108 | 111 |
| 28 | ことばのきまり（こそあどことば／つなぎことば）…………… | 112 | 115 |
| 29 | ことばの知識（かんようく）…………… | 116 | 119 |
| 30 | 漢字の知識（同じ読み方の漢字）…………… | 120 | 123 |

第四章

| | | | |
|----|----------------------------------|-----|-----|
| 31 | 物語（発展問題）…………… | 124 | 127 |
| 32 | 物語（発展問題）…………… | 128 | 131 |
| 33 | 物語（発展問題）…………… | 132 | 135 |
| 34 | 説明文（発展問題）…………… | 136 | 139 |
| 35 | 説明文（発展問題）…………… | 140 | 143 |
| 36 | 説明文（発展問題）…………… | 144 | 147 |
| 37 | 詩（発展問題）…………… | 148 | 151 |
| 38 | ことばのきまり（くわしくすることば／読点の使い方）…………… | 152 | 155 |
| 39 | ことばの知識（文の終わりの表し方／丸・点・かぎかっこ）…………… | 156 | 159 |
| 40 | 漢字の知識（漢字の使い分け）…………… | 160 | 163 |

例題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈舟崎靖子「やい、トカゲ」より〉

□ (1) ① 一日のうちのいつごろのできごとですか。② 「ぼく」はどこへ行きましたか。それぞれ書いて答えなさい。

①

②

考え方

物語を読むときには、いつ、どこで、だれがの三つをとらえることが大切です。ここでは、まず、10・11行目で時間をとらえます。具体的に「十二時」とか「昼」などと書いていなくても、太陽のいちがしめしてあるのでお昼ごろだとわかります。むしろ、この言い方のほうが、ぼかんと時間があいてしまつてつまらなく思っている「ぼく」の様子まで想像しやすいとも言えます。

「と」「の」の答えは、まず、のぶちゃんは東町公園に行つてしまつて、「ぼく」はそれを見送つたのだつたということをおさめましょう。そのあと18行目で、「原っぱへはいつていつた。」とあります。

□ (2) 「ぼく」は、なぜ、野球に行かずに、ひとりで原っぱにいたのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア のぶちゃんとけんかをしてしまつたから。

イ 野球はもととすきではなかつたから。

ウ 自転車をなくしてしまつたから。

エ 昼すぎに用があつたから。

□

考え方

物語を読むときには、中心となる登場人物の様子をできるだけわしく想像してみましよう。なぜ原っぱに行つたのか、なぜ、せっかく買ったろう石をすてしまおうとしたのか、なぜ、トカゲをおどかさうとしたのか……そう考えながら読んでいくと、一つ一つの行動から、「つまらない」「自転車がなくなるなんて、ひどい！」「まわりの人みんながにくらしい」などと思つている「ぼく」の様子がありありと目にうかんできます。

□ (3)

線「世界じゅうはからっぽ」とは、どういうことを表していますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 原っぱがとても広くてしずかであること。

イ 「ぼく」がひとりぼっちだと強く感じていること。

ウ 「ぼく」が耳が聞こえなくなつてしまつたこと。

エ 「ぼく」がとてもたいくつしていること。

□

考え方

物語を読むときには、様子をよく伝えてくれる表現をさがします。原っぱは、たしかに人がだれもいなくて、しーんとしていたのでしょうか、それで世界じゅうがさうだといふわけではありません。でも、「ぼく」には、そのしずけさが、世界じゅうの人が自分を見ずてしまつたように感じられたのです。「ぼく」がどんなにがっかりしているかがここからよくわかります。

確認問題

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈佐藤さとう「太一の机」より〉

(1) 太一は、①今、何年生ですか。②机は、いつ買ってもらったのですか。それぞれ書いて答えなさい。

①

②

(2) 本文中の【 】のところから、太一のどんな様子がわかりますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな机を買ってもらって、自分が大人になったよう
でうれしいが、まだうまく使いこなしていない。
- イ 大きすぎるので、自分が大きくなるまで大事にとって
おこうと、だれにも机をさわらせないようにしている。
- ウ 机は、プラモデルを作ったりするときにはちょうどいい、
広い遊び場所になると考えている。
- エ りっぱな机を買ってもらってうれしくて、どんどん
使っている。

(3) 線①「だれか、なんかいったかあ」と言っていると
きの太一の様子として、最もふさわしいものを次から選び、
記号で答えなさい。

- ア 自分のひとりごと、急にわりこんできた相手を見つ
けて、にらみつけている。
- イ ねえさんかおかあさんが帰ってきたと思って、にやに

やしている。

ウ 声が聞こえるわけがないので気味が悪く思っているが、
勇気を出そうとしている。

エ 声があると聞いていたのか、よく聞こえなかったの
で、もう一度たしかめようときよろきよろしている。

(4) 線②「太一くん、こっちだ」と言ったのは、だれ
でしたか。書いて答えなさい。

□

単元1の新出漢字

〈4ページ〉

照 ショウ／て(る・らす・れる)

芸 ゲイ

〈6ページ〉

径 ケイ

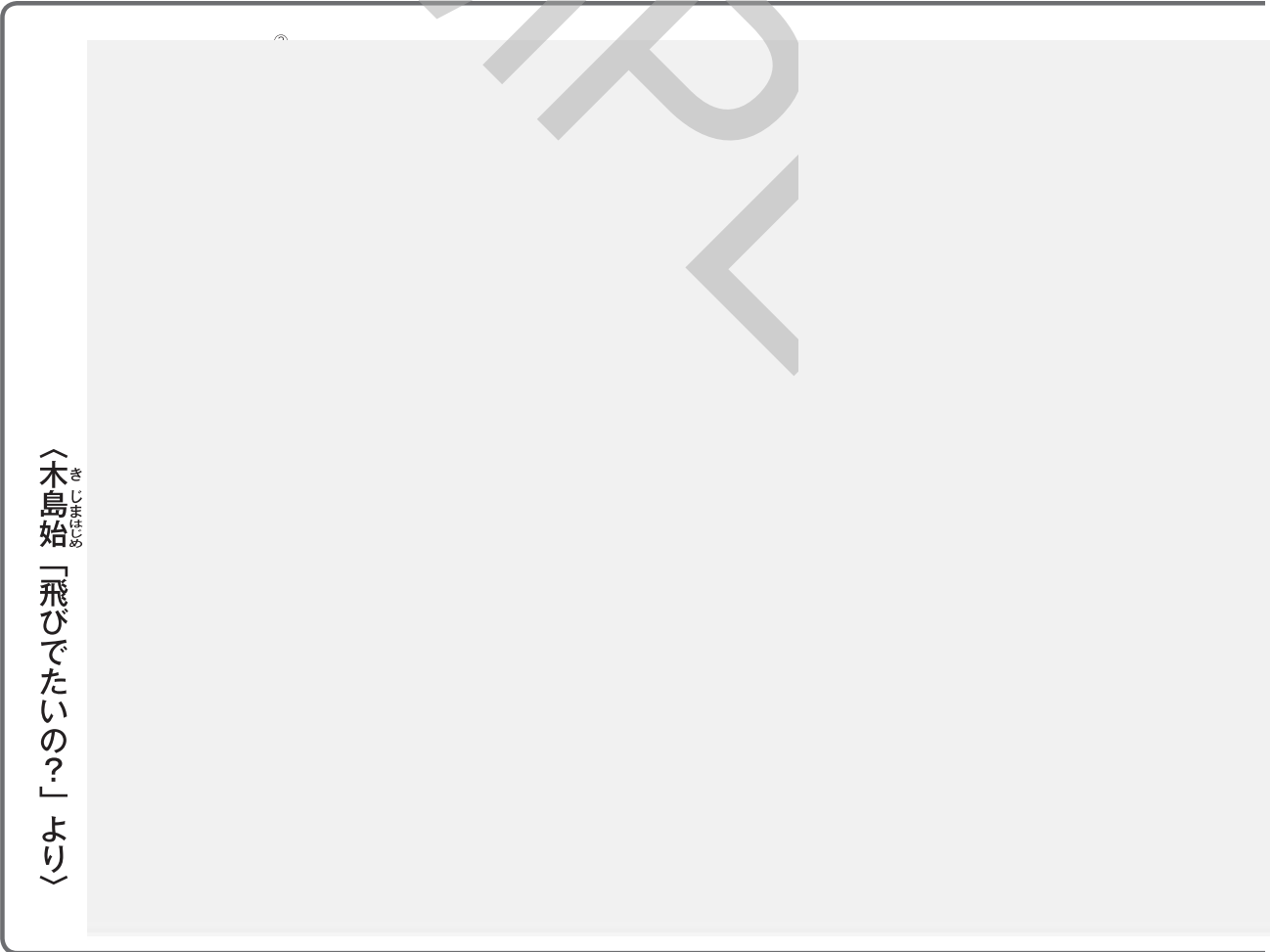
残 ザン／のこ(る・す)

例題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈木島始「飛びでたいの?」より〉



- (1) — 線①「胸のなかが、ときどきどきっとしてそれっきり胸から何かが、はじけとぶのじゃないか」とありますが、ノリコがこう感じたのは、どういうことがあったからですか。書いて答えなさい。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

考え方

物語を読むときには、気持ちを表すことばに気をつけて読み進めていきましょう。ここにあるように「胸がどきどきとする」のは、なにか思いもかけなかったことがあったときです。ノリコは、インコがにげてしまったので「たいへんだ、どうしよう」と思っどきどきしたのです。「胸から何かが、はじけとぶ」という表現については、たとえば「心がからっぽ」などという言い方があることを思い出しましょう。少しむずかしいかもしれませんが、がっかりした気持ちをよく表しています。

- (2) — 線②「新しいインコ」を大切に思うノリコの気持ちがよく表れている行動を、次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア えさをやったり、水をかえたりしてやったこと。
 イ 前よりもっといいねいに、かごの新聞紙をとりかえたこと。
 ウ 〈カロちゃん〉と名まえをつけてやったこと。

- 工 帰ってこないインコのことを忘れなかったこと。
 才 空を自由に飛ばせてやったこと。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

考え方

物語の登場人物の気持ちは、「悲しい」「うれしい」「どきどき」「がっかり」などの、気持ちをじかに表す言い方ではないところからも読み取れます。むしろ、こうした表現を見つけることが大切です。ノリコが「いいねいに」新聞紙をとりかえるのは、「今度こそしつぱいしない」という強い決心の表れです。前にはつけそびれたインコの名まえを今度つけたところからも、「今度は長くなかよくするんだ」という決意が読み取れます。

- (3)

— 線③「何やらうれしそうに」とありますが、ノリコがうれしそうにしているのはなぜですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 〈カロちゃん〉となかよしになれたから。
 イ にげたインコも元気でいると思えたから。
 ウ 〈カロちゃん〉はにげないと思ったから。
 エ にげたインコが帰ってきたから。

| |
|--|
| |
|--|

考え方

気持ちを表すことばがあったら、注意して「どうしてそう思うのか」を考えましょう。ノリコは、〈カロちゃん〉を大事にしていますが、にげたインコのことでも思いやっているのです。

確認問題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈辻邦生「夏の砦」より〉

□ (1) — 線① 「兄が言うようには」とありますが、ここより

前の部分で、兄はどんなことを言ったと考えられますか。

次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 松林に入れば、去年より多くの松茸が採れるさ。

イ ぼくたちだけでは、松茸を採るのは無理さ。

ウ 見つけたいと思って探せば、松茸は見つかるさ。

エ ぼくたちだけでも松茸は簡単に見つけられるさ。

□ (2) — 線② 「谷間に早くからだだよっていた冷たい、黒ず

んだ影が、いつか松林の斜面をはいのぼつていて、空が明

るくさえて白く光りはじめた」という情景が、「私」にあ

る気持ちを思い起こさせると考えられますが、その気持ち

を示すことばを、本文中から三字で書きぬいて答えなさい。

□ (3) — 線③ 「前には気がつかなかったが、番小屋の戸にか

かいてあるのと同じ会社名が書かれていた」という部分に

注目して、に入る「兄」のことばとして最もふさわ

しいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア もう、松茸は採られてしまっていたんだ

イ もう、うちの松林じゃなくなっていたんだ
 ウ もう、松茸は出なくなってしまったんだ
 エ もう、この松林に来てはいけないんだ

□ (4) — 線④ 「私からバスケットをひったくると、あつとい

う間に、そのなかみをそばの溪流の中にすててしまった」

のはなぜだと考えられますか。次から最もふさわしいもの

を選び、記号で答えなさい。

ア このまま松茸を持って帰れば、ないしよで出かけたこ

とがわかり、ひどくしかられることにハッと気が付いた

から。

イ 松茸狩りがとりやめになった理由を知り、同時に、ど

うにもできないほど激しいいら立ちにおそわれたから。

ウ 父の言いつけにそむいて来たのにもかかわらず、少し

しか採れなかったのがひどくはるかしく思われたから。

エ 駅までまだ遠く、あせっているのに、松茸ばかり気に

してさっさと歩かない私を見て、思わずカッとなったか

ら。

単元2の新出漢字

〈8ページ〉

底 テイ／そこ

飛 ヒ／と(ぶ・ばす)

泣 キユウ／な(く)